

# 令和3年度 南区自立支援協議会活動報告

## 1. 共通テーマにおける取り組み

共通テーマについては、事例を通じて、南区における複合的な課題を抱える児童を取り巻く環境を知るため、自立支援協議会と指定相談事業所連絡会と合同で勉強会・事例検討会を開催。

### ○合同研修

日時:10月13日 参加者:36名	あい・すてーしょんの役割を知り、児童へ焦点をあて、自立支援協議会の共通テーマ「複合的な課題を抱える家族への支援」を考える。講師:Linkにわしろ 高田美奈子氏 内容:あい・すてーしょんの事業、障害児等療育支援事業、地域支援特別事業、障害児通所支援事業者育成事業、あいのと、あい・ふあいる、あい・さかい・サポーター、大切にしている視点等について。講義の後グループワークを行い意見交換。
----------------------	--

- ・事業内容を確認した事で、子どもの成長やニーズの変化に合わせて、どうフォローしているのか知る機会となった。
- ・日頃児童との関わりが少ない事業所にとっても、関心を持つ事ができた。
- ・あい・すてーしょんの相談として、関係機関(保健師、学校など)から、支援に繋がっていない、家族の力が弱い等が多い。相談の必要な方の背景は、今年度共通テーマにある、複合的な課題を抱えた方が多くおられる。

### ○合同事例検討

日時:12月8日 参加者:35名	指定相談事業所連絡会より2事例情報提供あり。相談支援専門員の視点で課題共有。 事例から見えてきた地域の課題(キーワード)についてグループの中で意見交換する。
---------------------	---

事例①「外国人(中国籍)母子家庭をテーマとした事例」 <b>課題(キーワード):</b> 支援を行う上でのコミュニケーションの課題。言葉だけではない、伝え方、文化の違いがある。例えば、イスラム圏の方であれば女性の家に男性は訪問できない。リハビリとマッサージの概念の理解が難しい、相談支援を行う上で通訳者等の確保や専門用語の理解が難しい等。 <b>あったらいい等の社会資源:</b> 通訳者や協力者の確保。南区内の外国人留学生やコミュニティの活用。すでに三原台には中国語が話せる医療機関や社会資源がある。(既存の社会資源を知る)
事例②「複合課題の母子家庭をテーマとした事例」 <b>課題(キーワード):</b> 家族それぞれに支援者の確保。地域の中で子育てを支えて行く場。児から者への切り替え時の連携。相談員が抱え込まないよう視点を変える事のできる学びの場の活用。 <b>あったらいい等の社会資源:</b> 居場所づくり、不登校の子を対象とした子ども食堂の活用。

## 2. 南区独自の取り組み

### ○地域交流ワーキンググループ (地域向け啓発・展示・取り組みを進める)

・自立支援協議会のこれまでの活動内容や成果物を知って頂けるよう、南区協議会これまでの歴史(活動内容)を資料としてまとめ、デジタルサイネージ(電子掲示板)での展示、これまでの成果物(ライフステージ別相談機関のごあんない、みなみんなフレンズ作業所・児童版、出前講座、65歳からの介護保険移行の案内など)をみなみかぜギャラリーにて展示。併せて協議会を知っているかどうかの意識調査(アンケートにシールを貼って頂く)を行った。(展示期間:R3年12/1~R4年1/12)

### ○ネットワーク・協働ワーキンググループ (ネットワーク・協働を進める為取り組みを進める。事例検討や交流会など)

**【事例勉強会】**事例を深めるものではなく、構成機関についてより知ること・ネットワークをより強化することを目的に開催。事例を通じて各相談機関がどう対応するのかを意見交換。(事例提供⇒8月:保健センター・南区基幹、1月:エマリス)

**【王道の相談】**構成機関の「王道の相談」をシートにまとめ、11月に共有の機会を持った。(王道の相談シート提供機関:生活リハビリテーションセンター、阪南病院、エマリス、アプリコット、こころの相談センター、南区障害者基幹相談支援センター、保健センター)